

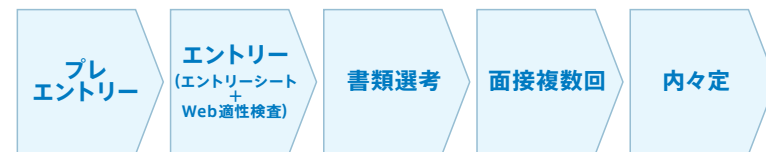
会社データ

■会社名称	日本アイ・ビー・エム株式会社
■事業内容	ビジネスコンサルティング、情報システムに関わる製品・サービスの提供
■代表者氏名	代表取締役 社長執行役員 橋本孝之
■資本金	1,353億円
■売上高	9,377億7,300万円 (2010年度)
■本社所在地	〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町十九番二十一号
■事業所	全国92カ所 天城ホームステッド1カ所 研究・開発1カ所(大和) 合計94カ所 (2011年4月1日現在)
■会社設立年月日	1937年(昭和12年)6月17日

採用情報

■募集職種: コンサルタント、営業、ITスペシャリスト、製品開発エンジニア、カスタマー・サービス・エンジニア、コーポレート・スタッフ、東京基礎研究所研究員
※最新の情報は、IBM新卒採用ホームページをご確認ください。

■選考プロセス:



※最新の情報は、IBM新卒採用ホームページをご確認ください。

■2012年度入社予定数: 約160名 (コンサルタント約60名、営業約40名、ITスペシャリスト約40名、その他約20名)

■2009-2011年
新卒入社実績

●コンサルタント:



●営業:



●ITスペシャリスト:



人事からのメッセージ

皆さんこんにちは。

IBMのいろいろな面を知り、興味を持っていただけたら嬉しいです。

IBMは、個々人が専門性を持ち自立して働くことをサポートする中で、

一人ひとりが生き生きと働き成長することが、お客様の成功、

そして企業の成長に繋がると信じています。

性別や年齢、国籍や障がいの有無に関係なく活躍できる場がたくさんあります。

世界170カ国に展開する世界最大級のグローバルカンパニーでご自身を成長させませんか？

Do you identify trends?

Do you think strategically?

Are you part of a global community?

Do you think the world can work smarter?

Are you ready for IBM?

Join us.

Let's build a smarter planet. ibm.com/start



日本IBM 新卒採用ホームページ ▶ <http://www-06.ibm.com/jp/employment/jp/>



連絡先: 〒261-8522 千葉県千葉市美浜区中瀬1-1 人事 新卒採用センター E-mail: saiyo12@jp.ibm.com

※IBM、IBMロゴは、世界の多くの国で登録されたIBM Corp.の商標です。

ビジネスとITの未来予測

IBMではグローバルなネットワークを活用し、未来を予測するためのさまざまな調査を行っています。その一つが、「IBM Global CEO Study」。これは、IBMの戦略コンサルタントが世界主要企業のCEOやリーダーに直接インタビューし、CEOが抱えている戦略的課題や関心事を分析したものです。CEOクラスの調査としては世界最大規模で、2010年の調査では世界60カ国、1,500名以上の方に実施しています。また、IBMの研究部門が1982年から策定している、「Global Technology Outlook (GTO)」。

GTOは、世界中の研究機関や市場における技術動向を考察し、5年から10年先を見据え、新たな技術トレンドや利用方法、新技術を使った新しいビジネスの可能性などを見通すものです。IBMでは、GTOを経営戦略策定のための重要な判断材料としています。

世界最大級の戦略コンサルティング部門

IBMというテクノロジーのイメージが強いと思いますが、実はIBMには、世界最大級の規模を誇る「戦略コンサルティング部門」が存在します。戦略コンサルティング・サービスは、「イノベーションと成長戦略」、「オペレーション最適化と財務会計」、「組織と人材」の3つのグループに分かれており、課題解決はもちろんのこと、ビジネスプロデューサーとしてさまざまな企業や公的機関と協業して新たなビジネスモデルを生み出したり、実現に向けて複数のプロジェクトを推進する役割も期待されています。

「良き企業市民たれ」

IBMは創立当初から、「良き企業市民」として社会へ貢献することを重要な企業活動のひとつと位置づけ、IBMがもつ技術、ノウハウ、社員のスキルを活かした社会貢献を実施しています。たとえば、子どもの頃から遊びや生活の中でコンピューターに親しんでもらうためのプログラム。幼児教育支援のための専用端末「キッズスマート (KidSmart)」の寄贈、世界初のオンライン科学館「トライサイエンス (TryScience)」、簡単なコンピュータープログラミングなどを体験できる「トライサイエンス実践教室」などがあります。これらの活動は、IBM社員のボランティアによって支えられています。2008年には、IBM版海外協力隊「IBMコーポレート・サービス・コー (Corporate Service Corps)」を開始。新興国における政府、自治体や教育機関などが抱える課題の解決を、世界のIBMから選抜された社員によるグローバル・チームが現地へ赴き支援するボランティア・プログラムです。2011年までに100チーム、1200人を超える社員がこのプログラムで世界各地に派遣されています。またIBMコーポレーション創立100周年の節目となる2011年は、全ての社員の年8時間以上の社会貢献活動への参加を推奨しています。日本でも多くの社員が、東日本大震災の被災地支援をはじめとするさまざまなボランティア活動に参加しています。



SNSの活用を奨励



日本IBM 新卒採用 (Facebookモバイル)

IBMは1997年に、社員個人のブログを使ったコミュニケーションのガイドラインを定め、外の世界に向け積極的にIBMについて発信することを奨励しました。社員の顔が見える形でのオンライン・コミュニケーションを通じて、ワクワクするような事柄を世界の人々と共有し、学びあうことは、IBMにとって重要だと考えたからです。現在このガイドラインは、ブログに加え、ソーシャル・ネットワーク (SNS) における、社員の自由な情報発信を後押ししています。また、TwitterやFacebookなどのSNSでは、IBM社員個人に加え、事業部、会社単位など沢山のIDを使って活発な双方向コミュニケーションを行っています。IBMに関心のある学生の皆さんとのコミュニケーションのために「IBM新卒採用チーム」Facebookページ (<http://www.facebook.com/IBMJapanRecruitment>) も開設しています。

社員の多様性 (ダイバーシティ) を尊重し活かす取り組み

世界170カ国で事業を展開するグローバル企業であるIBMは、国籍、性別、宗教などの違いを持つさまざまな社員が集まっています。そして、その多様性を活かすことがIBMの成長や変革につながると考えており、積極的なダイバーシティへの取り組みを実施しています。日本では、1998年に女性のさらなる活躍を支援するために設立された「ジャパン・ウィメンズ・カウンシル (JWC)」をはじめ、「障がい者」、「性的志向少数派 (ゲイ/レズビアン/バイセクシャル/性同一性障害)」、「ワーク/ライフ・バランス」、「国籍」、「年代」の6つの分野で社長直属のダイバーシティ委員会を設立し、社員への啓蒙活動や会社への提案を実施。特に女性の働き方への取り組みは、2010年に「均等両立推進企業表彰 厚生労働大臣最優秀賞」、2011年には日経WOMAN誌「女性が活躍する会社100」1位、東洋経済新報社「ダイバーシティ経営大賞」の大賞を受賞するなど、社外からも高い評価を受けています。

世界の仲間といつでもコラボ

離れた場所にいる相手とは、Web会議を活用します。日本国内だけでなく海外のメンバーとも、同じ画面を見ながら会議ができてとても便利。また、「Lotus Sametime®」というIBM製のチャット・ツールや、同僚のプロフィール (写真・連絡先・スキル・専門分野など) を瞬時に検索できるツール「BluePages」を利用し、世界170カ国42万人のメンバーにコンタクトすることができます。異なるオフィスにいる先輩や海外にいるエキスパートなど、社員同士のコミュニケーションに欠かせないツールです。

組織を越えたコミュニティ

社内にはさまざまなコミュニティが存在し、共同研究や情報交換などが活発に行われています。その一つである「COSMOS」は日本IBMの女性技術者コミュニティとして、2005年の発足以来、女性技術者の育成やそのための環境づくりに努めてきました。同年発足した「JTC (Japan Technical Council)」では、技術系プロフェッションに関する課題や提案について、若手もエグゼクティブも一緒に議論を重ねています。また、「環境」や「グローバル化」など、各自興味のあるテーマを設定しての社内勉強会も数多く実施されており、組織や役職を超えて、共通の目標に向かって協業するというカルチャーが根付いています。

人類や社会に貢献するプロジェクト

日本では、事故に次いで子どもの死因第2位である「小児がん」。その遺伝子研究を長く続けてきた医師は、新しい治療薬を開発するために、候補となる薬剤を約300万個もの化合物の中から短期間でシミュレーションできる膨大なコンピューター処理能力を必要としていました。ただし、処理能力の高いスーパーコンピューターを使うのはコストがかかりすぎる。そんな医師の悩みを解決したのが、WCG (ワールド・コミュニティ・グリッド) でした。WCGは、世界中の人々のコンピューターのアイドル時間における処理能力を結集することで仮想的にスーパーコンピューターと同等の能力を社会に役立つ研究活動に提供する取組み。2004年11月に発足して以来、伝染病、疾病治療、自然災害、飢饉など、数々の研究活動を支援してきました。IBMは、世界中の善意をスマートに集めるこの仕組みをスポンサーとして支援し、世界が抱えるさまざまな課題の解決に貢献したいと考えています。

あなたの知らないIBM

歴史的な出来事から皆さんに身近なものまで、IBMのイノベーションはさまざまな場面で活かされています。さて、あなたはいくつ知っているでしょうか？

- 1937年 マークシートの自動採点機を開発
- 1969年 アポロ11号の宇宙飛行士が、IBMコンピューターの支援により人類初の月面着陸に成功
- 1969年 プラスチック製のカードに磁気テープを付けるというアイデアは、IBMのエンジニアの妻がアイロンをかけていたときに思いついたもの。その後、クレジットカードとして商業界に普及
- 1973年 いまや店頭に並ぶほとんどの商品に付けられているバーコード。国際標準のUPCバーコード・システムは、1人のIBMのエンジニアによって生み出されたもの
- 1981年 感謝祭の日、夕食で残った七面鳥に試しにレーザーをあてたことがきっかけで、視力を回復させるレーシック手術の基礎となる、エキシマ・レーザーを使った手術法を発見

Smarter Planet

—地球を、より賢く、よりスマートに—

常に社員のキャリアアップと自己研鑽をサポート

新入社員研修をはじめ、社員ひとりひとりがプロフェッショナルとして成長するためのキャリア形成支援や学習プログラムが充実しています。全世界のIBM社員共通の「IBM CareerSmart」プログラムは、社員自らが自分の強みや希望を踏まえたキャリア形成計画を作成、管理するとともに、定期的な面談などを通じ、ひとりひとりの着実な成長をサポートしています。また、研修ポータルサイト「Learning@IBM」では、e-ラーニングのみならず、クラスルームやディスカッション形式などさまざまな研修の受講登録や履歴管理が可能です。ITについてはもちろん、ビジネススキルや英語など、幅広い研修プログラムを提供しています。

ノーベル賞受賞

IBMにはこれまで、5名のノーベル賞受賞者が在籍しています。1973年にノーベル物理学賞受賞当時、アメリカのIBMワトソン研究所で勤務していた江崎玲於奈氏は現在、顕著な研究成果を上げた若手研究者に贈られる「日本IBM科学賞」の審査委員長を務め、日本の科学の発展に尽力しています。

リーダーにとって最も優良なグローバル企業

米国特許取得件数 No.1

IBMは2010年における米国特許取得件数5,896件を記録し、世界で最も発明創造力のある企業として18年連続1位に。単年で5,000件もの米国特許を取得した、初の企業となりました。2010年は、より効果的な病状診断を提供するために複数のデータ源から患者情報を集め、分析し、処理する手法や、短距離無線通信を介して交わされる情報を基に交通状況を予測するシステムの発明などで特許を取得。IBMの創造力は、長期にわたる開発や大胆で探究心あふれる研究に支えられています。

TOP100 Global Brands

毎年、ブランド・コンサルティング会社Interbrand社により発表される「Best Global Brands」。これは、企業のブランド価値を独自の手法で算出し、世界の上位企業100社を発表するものです。IBMは、2011年度の同ランキングにおいて、3年連続の第2位に選ばれました。近年のビジネスモデル変革、世界的なマーケティング戦略などが、今後さらなる価値を創造する企業として高く評価された結果です。

IBMが提唱する新しいコーポレート・ビジョン「Smarter Planet」。これはテクノロジーを活用して世の中の非効率や無駄を削減し、私たちの大切な地球を守りながら「より賢く、よりスマートな」地球への進化を支援するという考え方です。2010年に経済産業省から「次世代エネルギー・社会システム実証地域」に選ばれた北九州市のプロジェクトでは、地区単位でエネルギーの需給管理を確立するため、環境負荷の少ない新エネルギーを積極的に取り入れた、全く新しいエネルギー利用を計画・実践しています。IBMは、ITを活用したエネルギーの制御や管理、分析ツール、さまざまな機能をつなぐネットワーク、都市の中枢となるシステムの構築を担当。ゆくゆくは、地域内でのエネルギーコントロールのほか、水資源や交通などの暮らしの情報をすべて一元管理できるシステムを提供していく予定です。IBMはビジネスに、社会に、そして地球の進化に貢献していこうとしています。

米国クイズ番組に挑戦したコンピューター・システム「Watson」

2011年2月に全米で放映されたクイズ番組「Jeopardy!」で、IBMが開発した質問応答システムWatsonが歴代出場者のうちすばらしい成績で話題を集めた2人と対戦し、勝利を収めました。Watsonと呼ばれる質問応答システムは、与えられた質問文の内容を分析して、大量の文書の中から質問の解答の候補とその根拠および確信度を計算し、高い確信度の候補が得られた場合に解答する、という一連の知的処理を高速に実行するコンピューター・システムです。この研究開発プロジェクトには、IBM東京基礎研究所からも2名の研究者が参加し、グローバルの技術力を結集して取り組んできました。Jeopardy!では、短時間のうちに正確な解答を返すために、質問に含まれる微妙な意味、風刺や謎掛けなどの複雑な要素の分析をしなければなりません。本来、人間とは異なり、自然言語を正確に理解することのできないコンピューターにとっては大きな挑戦であり、質問応答技術の進歩に貢献できる格好のチャンスでもありました。Watsonを支える技術は、今後、より迅速で正確な医療診断支援、潜在的な薬物間相互作用の検査、弁護士や裁判官による過去の判例の参照、金融分野の仮説シナリオと法令順守など、様々な分野への応用が期待されています。

2009年12月の「Fortune」で発表された、リーダーにとって優良なグローバル企業のランキングでIBMが第1位に。リーダーの統率力や文化、リーダー育成のためのグローバル規模での取り組み、コミュニティ内での統率力の発揮具合などの観点で審査されました。経済危機のさなかでも、リーダーシップ育成への注力を惜しまなかった点が、特に評価されたポイントに。

社員個人のニーズに合わせたさまざまなワークスタイル



IBMでは、働く場所や時間にとらわれない、柔軟な働き方を実現する環境を整えています。フレックス勤務や短時間勤務、在宅勤務、そして自宅が自分のオフィスとなる「ホーム・オフィス制度」など、さまざまな制度で社員の働きやすさを支援しています。また、社員の育児とキャリアの両立の支援も積極的に行っています。育児休暇は最大2年間の取得が可能で、男性の取得実績もあります。また、2011年1月には、本社事業所内に「こがも保育園」を開設、未就学児の社員の子女への保育を提供しています。Webカメラによるリアルタイムでの園内の映像の提供や、ネイティブ講師による園児への英語教育など、IBMらしいプログラムもあります。

18 IBMers Value

「お客様の成功に全力を尽くす」
「私たち、そして世界に価値あるイノベーション」
「あらゆる関係における信頼と一人ひとりの責任」

2003年に開催された「Values Jam」。全世界のIBM社員が「自分たちが実践すべき共通のIBMのValue」をテーマに、Web上でディスカッションを行いました。最終的に、IBM社員、IBMerのすべての活動の基礎となる行動指針として集約されたのが、これら3つの価値観です。